

行政視察報告書

平成27年7月

総務産業常任委員会

- 1 視察実施日
平成27年7月1日(水)から2日(木)まで
- 2 視察先
石川県かほく市・富山県南砺市
- 3 調査事項
テーマ：「定住促進事業について」
 - (1) かほく市
 - ① 定住促進事業について
 - ② 子育て支援への取組について
 - (2) 南砺市
 - ① 定住促進策について
 - ② 総合戦略の取組について
- 4 参加者
委員長 村井公平
副委員長 岡崎義樹
委員 古西祐子 坂部武美
浅田康子 宮崎春貴
村井正信 中川正則
随行 萩原靖久(次世代創生課長)
高瀬崇(議会事務局主幹)

石川県かほく市

1 市の概要

- | | |
|-------------|--------------------------|
| (1) 市制施行年月日 | 平成16年 3 月 1 日 |
| (2) 人 口 | 34,177人（平成27年 4 月 1 日現在） |
| (3) 面 積 | 64.44km ² |

2 調査事項

(1) 定住促進事業の概要

- ・市の総合計画の中で、「若年層が定住する魅力と活力あるまちづくり」を目指し、それに沿って定住促進施策に取り組む。
- ・石川県唯一の「イオンモールかほく」が平成20年10月に開業し、年間780万人もの来客がある。また、道路の整備により、金沢市から30分圏内となった。
- ・定住促進施策については、部長からの推薦による係長級を中心としたプロジェクトチーム（8名）により平成22年度に検討を進め、54の提案事業のうち、11の新規・拡充事業を市長に提案
- ・最終的には、「若年層の生活支援」「交流機会の創造」「住み良さの向上」の3つの基本方針のもと、上記11事業に既存10事業を加え、21事業を「定住人口増加プロジェクト」として23年3月に取りまとめ、そのうちの17事業を実施
- ・「若者マイホーム取得奨励金」はその第1弾の事業であり、22年度から実施。この制度については何度もPRを行い、金沢市内の建築業界等にもPR
対象：45歳未満
限度額：市外からの転入者は80万円、市内在住者は30万円。市内業者を使った建築はさらに20万円上乗せで、最大市外からは100万円、市内は50万円
- ・「スポーツ婚活出会いサポート支援事業」は、市内のNPO等が運営するスポーツをテーマとした婚活事業に助成（過去は最大50万円、現在は20万円）
- ・「空き家バンク」も実施しているが、現在の登録件数は1件のみ。保守的な地域のためか、なかなか登録が増えない。
- ・「若者マイホーム取得奨励金」は、国の交付金を活用して制度を拡充。この事業には議会も大いに賛同し、毎年4,500万円を当初予算化、12月議会で7,000万円程度に増額補正
- ・自然減により、かほく市全体の人口は減少傾向にあるが、新生児の数（毎年260人程度）とその6年後の小学1年生との数を比較すると50人程度増えており、これは定住促進策の成果と考える。

- ・ただし、周辺の市町も同じような住宅支援策を打ち出しており、チキンレース的な状況にもなっている。今後は、かほく市の特色を出すことが課題
 - ・かほく市に住もうというPR用の7分間のDVDも作成しており、民放ローカル局にもCMを流している、DVDでは、「かほく市に住んだら最大 186万円サポート！」という打ち出し方をしている。
- (2) 子育て支援への取組
- ・子ども医療費の助成を、26年度から18歳にまで拡充。現在は償還払であるが、28年1月からは窓口の支払を無料化
 - ・多子世帯の保育料軽減（第2子半額、第3子以降無料）については、かほく市が先行し、石川県が地方創生で追随
 - ・子育て支援情報を発信するスマートフォンアプリも開発（開発費用750万円）子どもの誕生日を登録し、その日を軸に色んな情報を提供

富山県南砺市

1 市の概要

- | | |
|-------------|-----------------------|
| (1) 市制施行年月日 | 平成16年11月1日 |
| (2) 人口 | 54,724人(平成22年国勢調査) |
| (3) 面積 | 668.64km ² |

2 調査事項

(1) 定住促進策の概要

- ・「南砺で暮らしません課」は、それまであった定住促進策が各部・各庁舎にまたがっていたため、一元的に実施していこうということで平成26年4月に新設
- ・課はコミュニティプラザ内に設置されており、土日祝日も営業している。休業日は毎週火曜日と毎月第4月曜日であり、5人の職員（うち嘱託1人）が交替で勤務。背中に「南砺で暮らしませんか」という文字が入ったポロシャツも作成し、課員をはじめ市長なども着用
- ・課には「婚活支援係」と「定住・空き家対策係」がある。
- ・婚活については、行政が税金を投じてまでする必要はあるのか、という声もあったが、平成23年度に、市長が「なんとを元気にするまちづくり事業」として職員に提案を募り、その中に婚活に関する提案もあったことから本格的に取り組を開始
- ・婚活事業については、23年度のスタート時に「あなたと私を結ぶ赤い糸プロジェクトA I P 4 8」と銘打ち、48組の成婚を目標に取り組み、本年度その目標を達成
- ・プロジェクトでは、婚活支援グループ「婚活応援団なんとおせっ会」の会員が、出会いの場を求める「婚活倶楽部なんと」の会員に対し、お見合い会やイベントの実施、また個別の相談を受けるなどきめ細かな対応を図るほか、市としても出会いイベント補助金や成婚者祝い金の交付などのサポートを実施
- ・婚活イベントは月1回程度実施、上記補助金等の予算は年間約800万円で、国の少子化対策交付金170万円も加え、本年度は1,000万円程度の予算を計上
- ・婚活にもこれからは広域的な取組が必要と考えており、南砺市にお嫁（お婿）に来たいという方をウェルカムで迎え入れたい。
- ・定住促進については、定住奨励金と民間賃貸住宅の家賃補助などを行っており、より転入者に手厚い施策としている。
- ・ただ、これらの施策は核家族化を誘導するという側面もあるため、三世代同居策も奨励、三世代同居奨励の補助金や、同居推進のた

めのリフォーム助成も実施

- また、転入者への引越費用の助成や、転入者を雇用する企業への支援も実施
- 空き家バンクも、宅建協会と協定を結んで実施、当初は情報も上がってこず、登録もなかなか進まなかった。そのため、開始2年目からは、空き家バンク活用促進事業として物件が売れたり賃貸が成立したりした場合の補助を実施
- これらの取組もあり、宝島社の「田舎暮らしの本」で、住みたい田舎ランキングの7位にランクイン

(2) 総合戦略の取組

- 本年度から地方創生推進課を設置し、総合戦略審議会条例も制定し策定作業を進めている。なお、総合戦略は議決事件としている。
- 議会では地方創生に係る特別委員会（8人）も設置している。ただ、最終的には総務委員会に付託する。なお、特別委員会は総合戦略策定後も設置を継続
- 富山県内各市の状況としては、交付金をにらんで、全市（10市）とも10月までに策定を完了する予定
- 南砺市の人口は2060年には23,500人（現在53,000人）にまで減少すると推計されているが、人口ビジョンでは、30,000人を目標に定める。その根拠として、出生率を2.07まで上げること、また社会動態をゼロにするということ考えている。

所 感

「総務産業常任委員会行政視察所感」

村 井 公 平

かほく市

かほく市の定住促進事業について視察研修を行いました。

若手職員が45歳未満、若年層を対象とした定住促進計画を策定し市長に提言し、議会においても説明し後押し力強い協力も得られ、現在その計画を実施されているところであります。

若者マイホーム取得奨励金制度については、45歳未満の方が市内で一戸建て住宅を新築した場合、かほく市外からの転入者には限度額80万円、かほく市在住者には限度額30万円、市内業者による建築の場合は20万円を加算する制度であります。

これは、施策の一例ですが、

- スポーツ『婚活』出会いサポート支援事業
- 新婚さん住まい応援事業補助金
- 不育治療費助成制度
- こども医療費助成(入院通院自己負担分18歳まで全額助成)
- 空き家バンクの創設
- 記念館や名所めぐり、農園見学等の体験ツアー事業
- 地元産木材を使用した住宅新築奨励金
- 宅地分譲を行っている地区への小学生のスクールバスエリアを拡大
- 東京・大阪を会場に開催されているふるさと回帰フェアへの参加
- 保育サービス、保育施設の充実
- 出生祝品(商品券3万円分)を贈呈する赤ちゃんすくすく応援事業

以上のような施策が行われており、これから結婚する者、現在子育てをしている者等関りの強い若手職員の提案により事業実施されており、また、人口減少を考えた子育て全般の取組施策が総合的に機能しなければいけないと思いました。地道に種をまき、それを育て上げていくことを繰り返して行っていかなければ人口減少を食い止め地方創生を図ることが出来ないと強く感じました。

また、住宅新築についてかほく市は都市計画の無指定ですので建てやすい条件でもあり実績も上がっております。西脇市においてもこの点について研究が急務と思いました。

南砺市

人口減少対策として、人口増につながる対策や減少に歯止めをかける施策を一元的に行う『南砺で暮らしません課』を市長政策室に設置され取り組まれております。ユニークな課や係の名前も特徴があり政策の思い入れが強く感じられました。この施策の中でも婚活支援に力を入れ『婚活支援係』を設置していろいろなイベント等を企画、開催され、平成23年度から現在までで48組の成婚実績をあげられております。また、空き家対策を定住策と連携させ『定住・空き家対策係』を設置して推進されております。

地方の自治体の多くが思っております、消滅しない自治体になるための政策を南砺市も実施されております。特に三世代同居の推進に力を入れ、『三世代同居世帯奨励事業補助金』『三世代同居推進リフォーム助成金』『ふるさと回帰転入助成金』『定住促進雇用対策補助金』等々を打ち出して事業推進が進められております。私が一番感じたことは、きめ細かな施策を考え実施されていると思いました。また、私が常々言っております、三世代同居推進事業が重点施策として位置づけられており考えが間違っていなかったと再確認したところです。西脇市も地方創生の策定が進められておりますが、若者の意見を取り入れ思い切った政策をきめ細かに進めて行かなければ取り残されていくと強く感じました。

「所 感」

岡 崎 義 樹

今回は人口減少対策について、石川県かほく市と富山県南砺市を視察しました。平成16年3月に3町が合併した「かほく市」。当時の人口は、34,621人でした。平成18年まではほぼ横ばいであった人口も34,874人、それ以後は減少傾向となり、本年4月には34,177人となっていました。少子高齢化が進むかほく市では平成20年に大型商業施設「イオンモールかほく」が開業した事で若者に定住してもらおう施策の第1弾として、「かほく市若者マイホーム取得奨励金」を創設し、市外からの転入者には100万円、市内在住者には50万円の建築奨励金を交付され、市の事業についても、市広報、地方新聞、ホームページ、ケーブルテレビ等を使ってのPRをしていました。それから第2弾の施策として、4部課の各部長推薦による係長・主査級の職員8名によって、定住促進プロジェクトチームを立ち上げ、新規事業の中で11事業を市長に提案していました。そのプロジェクトとして、「若者層の生活支援」「交流機会の創造」「住み良さの向上」を基本方針として取り組み、平成23年度には、婚活イベントや新婚世帯の住宅支援、子ども医療費助成等の福祉分野の拡充、空き家バンクなどの事業を、平成24年からはスクールバス事業や観光振興事業、保育サービスなどの事

業に取り組んでいました。若者だけでなく、健康促進に関する事業、福祉バス等の事業などにも力を入れていました。本年はマイホーム取得奨励金の拡充など、住み良さを重点とした施策も行っていきます。

富山県南砺市では、平成16年11月に8つの町村が合併した町であり、ここでも少子高齢化による人口減少対策として、婚活支援、定住奨励金、移住体験ハウス、空き家対策などを昨年より実施して行きました。南砺市でも職員5名によるプロジェクト事業を、かほく市とよく似ていますが、婚活支援ではゴールインするまでお世話をしたり、定住対策では奨励金や賃貸住宅の補助金などの支援や移住や定住を希望される方へは一泊1,000円で体験できる南砺市体験ハウス事業なども行って行きました。

今回、かほく市や南砺市を視察しましたが、そこでおこなっている事業など、広報紙やHPなどを使って、PR版用の独自のビデオを全国に向けての情報発信などを考えていいのではないかと思います。

「総務産業常任委員会行政視察所感」

古西祐子

私たち西脇市議会は、「人口減少」を大テーマに置き、石川県かほく市と富山県南砺市に行政視察に赴いた。

◎石川県かほく市

石川県のほぼ中央に位置するかほく市は、面積約64km²（人口密度531人）ということで、西脇市132km²（人口密度308人）の約半分の面積の中に人口34,177人が住む、西脇市よりかなり人口密度の高い町と言える。

市の西側が大きく海に面している立地から、古くには漁業・水産業が盛んだったようだが、現在の主要産業は、ゴム入り織物など特化した繊維産業や情報通信、電気機械ということだ。また特産品として、「ルビーロマン」という高級ぶどうがあり、ブランド化が図られている。初競り時には1房55万円の値が付いたというのには驚いた。最盛期には値段が下がるとは言え、それでも地元の人でもなかなか口にするのは難しいということだ。

かほく市から、県都金沢市は約20～25km圏内にあり、JRでも車でもだいたい30分ほどで行け、通勤や通学でも無理なく通える距離で、非常に利便性が高い有利な立地にあると感じた。

かほく市役所での視察の印象は、私にとって驚きの連続であった。議員歴が短いので視察経験が少ない中での印象なので、他の議員さんとの印象とは違うかもしれないが、まず驚いたのは、私たち西脇市議員団の視察説明に同席してくださったかほく市役所の職員さんの数であった。ご挨拶いただいた杉本議長は除くとして、総務部企画情報課長の山口さん、課長補佐の山森さん、市民部子育て支援課長の丸井さん、課長補佐の千田さん、議会事務局長の川崎さん、次長の北川さん、係長の米谷さんの総勢7名の

職員さんが、私たちの視察のために2時間もの時間をさいて下さり、念入りな説明をして下さいました。

その人数の多さは、同時にかほく市が取り組む事業に掛ける想いの強さに繋がっていて、政策ごとに説明いただく一つひとつに、熱いものが伝わって来て、私たちを圧倒した。

かほく市は、東洋経済新報社が出した、「全国790市区 住みよさランキング」で2015年は全国9位ということだ。昨年2014年は7位だったという。このランキング表を見ると上位10位までに能美市、野々市市、かほく市と石川県の市が3都市も入っている。また、30位までには石川県の市が6都市、福井県・富山県の市が9都市入り、なんと北陸3県で30位中半分の15都市がランキングされていて、非常に高レベルで競い合っている状況がうかがわれる。ちなみに兵庫県は30位内では、26位に芦屋市がランクインしているだけで、その次は43位に加東市の名前が上がっている。西脇市は一体何位なんだろうと調べてみたが、インターネット上では調べることが出来なかった。図書館で調べようと思ったが、西脇市の図書館には2015年版は置いていなかった。また調べてみなければならない。

このように、近隣他市と住みよさを競い合う土地柄も手伝ってか、かほく市の人口減少問題における「定住促進施策」～かほく市定住人口増加プロジェクト～や、「子育て支援への取組」の内容は、これでもかこれでもかというくらいの内容であると感じた。

特に「かほく市若者マイホーム取得奨励金」の取組は毎年100件を超える申し込みがあり、若者世代のニーズにピッタリはまり、定住促進につながっているようだ。

これは、ターゲットと同世代の30代の若い職員さんがこの定住人口増加プロジェクトに携わり、事業を提案・進行していることが大きいのもかもしれない。またかほく市のPRをテレビコマーシャルを使い積極的に行っていたり、スポーツをテーマにした婚活イベントや、「ふるさと回帰フェア」への出展で移住の推進など、特に若者世代にターゲットを絞った事業が特徴的だ。

しかし、様々な施策が近隣他市でも実施されていたりするので、チキンレース（消耗戦）になりかねないということを課題と捉えているようだ。

かほく市では平成20年に県内最大級のイオンモールができ、特に若者世代に支持される一歩抜きでた町になっているように思う。ただ、このイオンモールには地元商店はほとんど出店していないということだ。イオンという巨大資本が町に来た時、その町にあった商店、商業にどれほどの影響があったのか、また、イオンなど大手資本が町に入り、その町のお金の流れが一気に変わることが、長い目で見て町の本当の幸せに繋がるのか、私にはわからない。

とにかくかほく市は、気合の入った熱い町であった。

◎富山県南砺市

富山県南砺市は、富山県の南西端にあり、人口54,724人、面積は西脇市の約5倍、668㎏あり、人口密度は77人。西に車で35分位のところに石川県金沢市があり、東に50分位のところに富山県富山市がある位置関係だ。平成16年に4町4村が合併し大きな町域が形成された。世界遺産である合掌造り「五箇山」がある町でもある。

高齢化率が34.9%と高く、全国より20年早く少子高齢化人口減少が進んでいる町と早くから認識しているようだ。

南砺市は、人口減少対策の取組として従来から、婚活支援事業や定住奨励金事業、移住体験ハウス、空き家実態調査、山間過疎地域支援など、さまざまな事業に取り組んできたが、平成26年4月に、これらの事業を一元的に取り扱う、正にドンピシャの名前「南砺で暮らしません課」を設置した。この課は、井波コミュニティプラザアスモというショッピングセンターの2階にあり、婚活支援係と定住・空き家対策係で構成されている。

そのままズバリの係名「婚活支援係」と名前が付いてあるだけあり、婚活支援への取組が半端ないなと驚く。「おせっ会さん」という昔の仲人さんのような役割をしてくださるボランティア制度があり、それには市長筆頭にたくさんの市民が登録をしてくれているという。行政も市民も町をあげて、婚活支援に取り組んでいる様子がわかる。危機感がそうさせるのか、その真剣度合いが伝わってくる。

逆に言えば、行政が婚活にまで関わらなければならない位、日本は末期的な状況なのかもしれない。

「定住・空き家対策係」では、新築や中古住宅に対する南砺市定住奨励金や、民間賃貸住宅居住補助金などの制度に加え、「消滅しない自治体になるための3本の矢」と銘打ち、三世代同居世帯奨励事業など、特徴的な施策を行っている。子供を産み育てやすいのは三世代が同居しているというのは大きなポイントであると感じる。核家族化の考えよりも、これからの日本は三世代化や大家族化への考えの変換が必要であると感じる。

人口減少に対する取組への真剣度合いが、かほく市も南砺市も全然違うなど感じる。今回訪れた両市がある北陸地方と比べると、私たちが住む関西地方、それも兵庫県ではまだまだ人口減少に対する危機感が薄いのもかもしれない。しかし、西脇市においては、他人事ではないし、待ったなしの状況である。

事業を充実しようと思えばお金がかかる。かほく市の事業は多様で攻撃的、市民にとってはとても魅力的ではあるが、市の財政が許すのであれば問題ないのかもしれないが、お金がいくらあっても足りないようにも思う。市の職員さんはほんとに一生懸命なんだが、ほんとにそのやり方を永遠続けていくことがいいのだろうか。そのお金は一体どこから出ているのだろうか。

南砺市の「おせっ会さん」のように、そんなにお金をかけず、知恵を出し、市民が主体的に動く。町を想うたくさんの市民が楽しみながら、結果、まちづくりに携わっているといえる。

人口減少対策の答えは、きっと無数にあるのではないか。そしてその成功の鍵は、行政の政策ではなく、本当は市民の意識変革なのではないだろうか。

「かほく市・南砺市行政視察所感」

坂部 武美

○かほく市

定住促進事業である若者マイホーム取得奨励金、新婚さん住まい応援事業、スポーツによる婚活出会いサポート事業をはじめ、子育て支援への取組について調査する。

平成の大合併によって、平成16年3月に石川県で最初に高松町・七塚町・宇ノ気町の3町が合併し人口約3万5千人の市となった。

金沢から30分圏内の位置にあることから人口減少が27年3月末の合併時から11年間で465人の減少にとどまっている要因と言える。（西脇市は10年間で約3,300人減）

・若者マイホーム取得奨励金

平成22年度から実施し、45歳未満の方がマイホームを所得した場合の奨励金で、市外からの転入者は80万円、市内在住30万円、市内業者による建築20万円で4か月で37件の申し込みがあり、22年度は1年間で81件となった。

さらに、27年度からは県外に3年以上居住していた人がU I J ターンした場合、50万円加算も追加している。

22年度から26年度までの5年間で451件、交付額は2億3,985万円で、定住促進策としては効果がでていていると感じた。

申込件数の多い要因として、土地の坪単価は、かほく市内で7・8万円と安価であることがあげられるのではないかと考える。合わせて、金沢から車で30分以内という十分通勤範囲であることも大きいと感じた。

・新婚さん住まい応援事業

23年度から実施している40歳未満の新婚さんアパート支援であるが、月1万円を2年間補助している。23年度から26年度までで212件、交付額3,506万円、定住者は393人でうち転入者は285人と7割以上が転入者であることから効果があると言える。

西脇市はアパート支援はしないと答弁されているが、再考してもよいのではないかと思う。

- ・スポーツによる婚活出会いサポート事業
 婚活も様々な取組が行われているが、ゴルフやボーリングなどのスポーツを通じて、NPOなどが婚活する場合、50万円助成するもの。23年度から26年度までで11件、437万円助成、参加者544人、カップル成立37組、結婚1組。
 スポーツによる婚活は今後の参考になったが、西脇市でも成婚に至ったのは1件と聞くことから、私としては、婚活は行政が実施すべき事業なのか、民間に任せておけばよいのではないかと常に考えてしまう施策である。
- ・子育て支援
 赤ちゃんが生まれたら、新生児1人につき、かほく市共通商品券3万円を贈呈、チャイルドシート1万円限度で補助している。
 子ども医療費は18歳まで無料。18歳まで引き上げて約450万円の支出増とのこと。西脇市の人口は、かほく市よりも約7千人多いが、500万円程度の支出なら西脇市でも拡充すべきではないかと思った。
- ・その他
 定住促進策としてマイホーム取得奨励金は成果が出ていると思うが、金沢への通勤圏であることから、かほく市以北の能登半島各町からかほく市への移住があるとされた。ということは、他町は人口減になっており、行政として、自分のまちさえよくなればよいという事にならないか、常に考えてしまう。

○南砺市

人口減少対策、まち・ひと・しごと総合戦略の取組について調査する。

平成16年11月に4町4村が合併し、現在人口約54,000人。南砺で暮らしません課という課を設置し、人口減少対策に取り組んでいる。

- ・婚活
 お見合い作戦、スキルアップ講座、結婚相談など月1・2回の婚活イベントを実施している。特に、仲人さん役と言えるおせっかいさんの会(会員数115名、女性84名男性31名)があり、成婚までのフォローを行っている点大きい。23年度から27年6月までに48組が結婚されている。
 企業や地域等が行う婚活イベントに補助しており、10人以上に最高50万円、仲人奨励金として結婚した人が1年以内に市内に住む場合2万円支給するとしているが、受け取った仲人の方はいないとのこと。
 かほく市では1組の成婚であったのに対し5年間で48組は飛びぬけているが、昔のような仲人の役割を果たしているおせっかいの力が大きいと感じた。
- ・定住促進
 南砺市も定住奨励金として市外からの転入100万円+家族加算1人

5万円(20年度から26年度までで424件)、アパート支援も市外からは月1万円2年間(24年度から26年度までで209件)などを行っているが、特に、古民家の空き家対策として田舎暮らしを促進するリフォーム助成30万円限度を活用し25年度から3世帯が移住している。

なお、空き家の有効利用は富山県宅地建物取引協会が管理しており、西脇市は本年度、空き家対策の方向が示されるが、民間に委託する場合、受け入れ先の確保が必要となってくる。

世界遺産に登録された五箇山の合掌造り集落へも千葉県から1組移っている。豊かな自然や歴史の中で子どもたちはすくすく育っていると答えている。

・その他

南砺市は立山連峰を背景に、五箇山合掌造り集落の文化遺産や、世界から演劇人が集まる利賀フェスティバル、棟方志功記念館、多くのスキー場などの集客施設を持っている強みがある。

中学生までの医療費助成や第3子以降の保育料無料化など、他市と同様の施策も多いが、各地域(31地域)への活動資金として200万円の交付も行い、地域自治への支援を行っている。このことは、やはり、そこに住む人たちのコミュニティの推進こそがまちづくりの基本であるとするもので、西脇市も含めどこの市町でも同様であると感じた。

○まとめ

2市を視察した以上、では、議会として何をすべきかとなると、様々な施策を行っていることを参考に、よいところは西脇市も取り入れていきたいとは考えるが、例えば、かほく市が行っている高校までの医療費無料化について、西脇市議会として、または委員会として提言していくのか、個人として一般質問等で提言するのか、いずれにしろ、視察によって得た知識は何らかの形で今後の市政に反映する必要があると思っている。

「所 感」

浅 田 康 子

総務産業常任委員会の視察先は、常任委員会が特定所管調査事項に掲げた「人口減少対策」や「定住促進事業」を先行されている石川県かほく市と富山県南砺市に決まりました。

6月定例会が終わるやいなやの7月1～2日の日程となりました。

1日目、石川県かほく市

はじめに・・・金沢駅に着いた時、「ここの県庁に西脇出身の谷本知事が居ってんやなあ」と言いながら新幹線、在来線を乗り継ぎ、かほく市役所

へ到着。杉本議長はじめ、多くの方のお迎えに恐縮しました。着くなり「おもてなし」の心を学びました。

企画情報課の山森さんから市の概要について説明を受けました。方言まじりの説明に場がなごみ方言もいいものだと、感じました。また、担当職員の皆さんが元気なので、かほく市全体が元気なイメージを持ちました。市職員は市の顔だなと思いました。

石川県かほく市は、金沢市まで20～25km圏内にあり、電車で30分位の位置になる、そのため、金沢市に住居を求める人が多いとのこと。10年間の人口推移では、人口は横ばい、世帯数は、増加傾向にある、1世帯あたりの人口は減少しており、核家族化が進行している。西脇市と同じ傾向だと感じました。年少人口、生産年齢人口ともに年々減少しているなかで、高齢人口は大きく増加している。ここでも、少子高齢化が進行しているのうかがえる。

かほく市の現状は、

☆イオンモールの誘致により賑わいが出てきた（西脇にもショッピングセンターが欲しいとの声が多くあります。）

☆スポーツ「婚活」の支援（婚活が定住促進の大きな柱になっていると感じました。）

☆不妊治療費助成の充実（一定ではなく、特に高額な治療への助成が必要だと思いました。）

人口減少対策（定住促進）事業について

☆若者マイホーム取得奨励金

☆新婚さん住まい応援事業補助金

☆木の家づくり奨励金

☆住宅用自然エネルギーシステム設置費補助金

☆空き家バンク制度

これらの事業に取り組んでおられます

定住人口増加、少子化対策への取組では「結婚スキルアップセミナー」や「スポーツ婚活 出会いサポート支援事業」等で、まずは、若者の結婚への支援をし、住まいの支援も様々ありますよと結婚への後押しをされています。

私が、興味を持ったのは、「スポーツ婚活 出会いサポート支援事業」です。

市内のNPOのメンバーが企画・運営する、スポーツをテーマにした「婚活」です。

ゴルフ・ボーリング・社交ダンス・宝探し等の内容でNPOを中心に活

動されています。

平成23年から、参加者延べ人数、544人、カップル成立37組、うち結婚されたのは1組だそうです。

西脇市でも、婚活を応援するボランティアグループ「未来予想図の会」が企画・運営をし、毎年「婚活」の事業を行っています（私も、H21年の発足から会のメンバーとして活動に参加しています。）。かほく市と同様に、参加申し込みは、毎回、定員を上回って抽選をしています。

同じように、カップルも毎回、誕生していますが、なかなか、成婚まで進展しないのが現実です。

本市も、結婚されたのは1組です。

「出会いの場」までの準備として、メイク・服装・話し方等のセミナーが大切であることを認識いたしました。「未来予想図の会」でも、「男塾」と称して事前にセミナーを開催したこともあります。

また、妊娠・出産・育児・子育てと切れ目のない支援として、「スマートフォンアプリを活用した子育て支援情報発信」です。

是非、西脇市でも取り入れて支援をしていきたいと思いました。

この支援は、スマホを利用して、結婚・妊娠・出産・育児に関する情報を適切な時期に、必要な人に的確に発信されています。

行政の関係各課からの情報収集やチームの連係が大切になってきます。

この取組は、忙しいママや、情報を知りたいママたちには、とても便利なサポートであると思います。

こうした様々な取り組みが2015年全国790市区、住みよさランキングでは、かほく市が全国第9位に選ばれている理由かとも思います。

私のおもい

婚活・・男女の出会いの場を提供し、カップル成立の手助けをしていく。

結婚・・若者に、結婚への夢や希望を持ってもらうセミナーを開催する。
次世代のパパ育ての事業を推進する。

妊娠・・不妊治療費の助成を充実させること 妊娠中のママの心配ごとや不安な気持ちを軽くしてあげられるようサークルへの参加等をすすめる。

出産・・安心して出産を迎えてもらえるように、ママへの情報発信をきめ細やかにしていく。

「おめでとう」の気持ちをこめてお祝い金の助成をする。

子育て・特に、第一子の子育ては不安が大きいので、相談できるサポーターが必要です。

少しの時間（病院へ行く間・美容院へ行く間）こどもを見てももらえる支援があること。

こうしたきめ細かい支援の必要性を感じました。

二日目 富山県南砺市

平成16年に8つの町村が合併し、南砺市となる。

ユネスコ世界遺産に登録された「五箇山の合掌造り集落」が有名です。また、電車から見た「散居村」の独特の風景は西脇では見られない美しい景観でした。

人口は約55,000人、世帯数約18,000戸、市の8割を森林が占めている。今回の視察の調査事項である「人口減少対策」で南砺市は平成26年に「南砺で暮らしませんか（課）」という課を新しく設置されたことに大変興味をもちました。

ここでは、「南砺で暮らしませんか（課）」についてまとめてみたいと思います。

この課の業務内容は、(1)婚活支援係(2)定住・空き家対策係です。

婚活支援係～あなたと私を結ぶ赤い糸プロジェクト A I P 4 8～の事業を「なんとおせっ会」と「婚活倶楽部なんと」のボランティアグループのみなさんで活動されています。西脇のボランティアグループ「未来予想図の会」の取組と大きく異なるのは、申し込みをすると、会員登録がされることです。話の流れで登録の必要性を感じました。「未来予想図の会」でもその方向で話し合いたいと思いました。

ボランティアの世話人さんたちが研修を受けて、今の若者の結婚への考え方や未婚者の考え方など把握して、お世話をされています。

世話人さんは、身分証明書や名刺を持って安心していただくようにされています。

そして、世話人さんが登録されている会員さんを何名かずつ担当して、世話人同士が相談して相性の合いそうな男女をお見合いさせるそうです。

平成23年度から始められて今年6月現在で成婚48組成立されています。

この成果には、ただただ驚くばかりです。

48組を成立されるには、様々な統計をとられたり、結婚に対する現状を調べられたりと細かい調査と、あらゆる支援をされています。

わが子以上の思いを込められているのがわかりました。

結婚されたお二人には、南砺で住んでくださいと定住・空き家対策係が、
☆南砺市に住んでみんないけ
☆南砺市で暮らしてみんまいけ
☆南砺市で働いてみんないけ
と事業を展開されています。

私のおもい

今回の視察は、私が関心を持っている「婚活」が主な内容でしたので、大変勉強になり、また、参考にさせていただくことが多々ありました。

取組の仕方はいろいろでも、「みんな、幸せになって欲しい」この思いは、かほく市も南砺市も、そして、西脇市も同じです「未来予想図の会」

も今年の事業にさっそく取り入れたいと思います。

かほく市と南砺市で定住人口のための支援策をいろいろと学びました。

両市とも、必死さと本気がうかがえました。

住宅支援で、新築への助成、中古住宅への助成、賃貸住宅への助成と定住のための助成がまだまだありました。いつまでその施策を続けるのか？近隣同士が助成の競争にならないか？と心配になりました。

尋ねましたら、同じ思いでそのことを危惧されていました。

西脇市においても、同じことが起こり得ると思います。

今後は、助成金以外の、市の持つ特徴で都市間競争に勝っていかなければなりません。

それは何か…大きな課題ではありますが、最後は、「人と人とのつながり」「安心して暮らせる環境」等、心の支援になるのではないかと思います。

「所 感」

宮 崎 春 貴

かほく市

かほく市は、石川県のほぼ中央に位置し、金沢市の約20～25km圏内にあり、緑豊かな自然環境に恵まれている。かほく市では、定住促進事業について、かほく市創生総合戦略について、頑張る地方応援プログラムの取組について、の三点について視察をおこなった。かほく市の人口減少の要因は出生者数が死亡者数を大幅に下回る自然動態の減少傾向が著しく、中核市の県都金沢市を中心とした近隣市町への人口流出が考えられている。定住促進策の第一弾として平成22年度に「かほく市若者マイホーム取得奨励金」制度が創設されている。45歳未満の方が、市内で一戸建て住宅を新築した場合、最大100万円の建築奨励金を交付するもの。市外からの転入者は限度額80万円、市内在住者は限度額30万円、市内業者による建築は20万円を加算となっている。この制度のPRについては、建築業者、金融機関への説明会、市広報、地方紙（新聞）ホームページ、ケーブルテレビ等を活用した制度の周知など工夫をされている。また、第二弾として、若年層の生活支援、交流機会の創造、住み良さの向上を基本方針として、各部長推薦による中堅職員（係長・主査級）8名で構成される「定住促進プロジェクトチーム」において定住促進施策の調査検討をおこなっている。最終的には、11の新規・拡充事業を市長に提案をしている。この定住人口増加プロジェクトの予算化については、事業の推進と積極的な制度のPRについて後押しを得ている。平成23年には、この11の新規・拡充事業のほか、既存事業のうち定住促進に資する10事業を加え、21事業にまとめている。各事業の成果としてマイホーム取得奨励金では、451件、定住者数は

1,538人、うち転入者は617人、また新婚さん住まい応援補助金（家賃助成）では、26年度末までに定住者数393人、うち転入者285人等若い世代に焦点を当てた事業では一定の成果が出ている。しかし各事業とも石川県内でもほとんどの自治体の実施しており、かほく市の特徴・特色を出していく必要があり課題は山積している様に思えた。かほく市創生総合推進計画は、国のまち・ひと・しごと創生法に基づいた、人口減少抑制策、地方活性化を進めるために平成27年2月に本部が設置されている。予定としては平成27年12月ごろに、かほく市創生総合戦略推進計画が策定される見込みとなっている。

南砺市

人口減少対策について。人口減少対策については、人口増に繋がる対策や人口の減少に歯止めをかける施策を集中的に行うために、複数以上の課で行っていた事業を「南砺で暮らしませんか（課）」を設置し、業務は、婚活支援係、定住・空き家対策係を受け持っている。まず、婚活事業については、あなたと私を結ぶ赤い糸プロジェクトA I P 4 8を創設して事業を展開している。婚活応援団などおせっ会の整備。おせっ会は、一般公募、自治会及び婦人会等の推薦された会員によって組織され、市が運営する婚活倶楽部などへの加入、婚活イベント等を積極的に展開している。また、仲人成婚報奨金として2万円が出る。会長は市長が務めている。婚活倶楽部などを組織して、出会いの場を創出している。加入資格については25歳以上から概ね50歳未満までの独身男女で、結婚したいと願っている方、市内に住むことを希望される方等となっている。加入は無料、イベント・セミナー等の開催は、26年度実績は18回開催されている。その他、成婚者祝い金（商品券）の交付等、様々な事業が展開されている。南砺市では単に成婚させることを最終目的とはせず、その後の育児、子育て支援も合わせて重点施策として取り組んでいる。南砺市では市の事業として婚活に取り組んで、結婚が決まってからの、生活、子育て等の支援を行っている。このような事が南砺市の、定住促進につながっていくのではないかと思えた。これからの定住促進は、若い世代、子育て世代に、焦点を当て、受け入れて貰える魅力のある施策を展開していくことも一つの方法ではないかと考える。

「所 感」

村 井 正 信

かほく市

北陸地方での自治体の人口減は近畿地方と比べてもその減少が著しい。

平成22年の国勢調査において、石川県内では、かほく市以北の人口減少が著しい結果となっているとの結果が出ている。今回、そのかほく市での人口減対策に学んだ。

かほく市の人口状況は、平成18年の34,874人をピークに減少傾向に転じ27年3月末では34,177人になっている。

人口動態を見ると以下の現状で、年度により社会増がある。

	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
自然増減	△87	△78	△107	△142	△60	△102
社会増減	111	△80	△25	3	△15	76

西脇市での人口動態を見ると、上記の年度も自然減であり、社会減の状態が続いている。上記の状況を見ると、かほく市での取組の成果が出ているのかと期待を寄せた。

平成23年3月に「かほく市定住促進計画」が策定され、具体的に動き出している。コンセプトは出会いから定住であり、若者・子ども育成へのきめ細かさが特徴的である。

1、出会いサポート

2、新婚さん住まい応援（民間アパート家賃支援） 1,229万円

3、不妊治療費助成・不育治療費助成 1,200万円

4、出産祝い金（市共通商品券3万円） 810万円

5、子ども医療費助成 8,100万円

6、空き家バンク 0円

7、小学生のスクールバスエリアの拡充

8、若者マイホーム取得奨励金（建築費助成） 6,908万円

特に若者マイホーム取得奨励金は、毎年増えており約4割が市外の住民とのことである。

	23年度	24年度	25年度	26年度
件数	81	100	120	122
交付額	4,098万円	4,513万円	6,004万円	6,908万円

もう一つ特徴的であったのは、かほく市の取組をPRするかという課題に対して、テレビCMを流していることであった。1か月単位で年間3回それぞれ違う局に15秒のCMを時間帯を変えて70本と10分と5分の特別版を放映している。ちなみに制作費と放映料は1か月80万円とのこと。

これらの事業で約2億円を支出している。人口減対策はすぐに成果が見えないため、理解が進まない点もあり長期的な視点が必要になる。

かほく市では、新生児が増え、6年後の小学1年生が約50人増加するとの

ことであり、一定の成果を出している点については学ぶべきことである。

南砺市

南砺市での人口増の施策での私の注目点は4点ある。

- 1、まず、平成20年から32年までの12年間の期間を設けて事業を行っていること。事業内容については、かほく市と似たような内容であるが、人口増はすぐには成果が見えないことを見据え長期的展望を立てている。
- 2、婚活応援団として「なんとおせっ会」という仲人さんの役割をするボランティアが96人いることである。婚活を希望する若者にマンツーマンで接し、その人の要望を聞き、「なんとおせっ会」の中で情報交換し、その条件に合う相手を探しお見合いをさせるというシステムになっている。このシステムはすごい、私達の世代には仲人の役目をするおじさんお婆さんがいて、いろんなお節介をやっていた。今の世代にはそのお節介がうっとうしいの言葉で片付けられている。南砺市はそれを逆手にとっておせっかいを婚活応援団にしたところが私達の学ぶ点だと思う。そしてそれに答えて96名もの「おせっかいさん」が応募されたことも地域特性があるかもしれないが、評価されることだ。
- 3、PRの役割をするパンフレットは市外から転入して来た人をメインに据え、市外の若者が南砺市に転入したらどのような受け入れが出来るかの視点で貫かれている。新鮮さを感じる。
- 4、4点目はネーミングの面白さである。婚活を支援する課の名が「南砺で暮らしません課」であり、婚活の実働部隊が「なんとおせっ会」である。このようなユニークな発想をする人がいる課ではいろんなアイデアが浮かぶものである。

私たちが南砺市を訪問した日の地元新聞の朝刊に、県下全域の人口増減の記事があり、南砺市は昨年と比較して1%の人口減となっていた。現状は厳しい状態のようであるが、平成23年からの取組である「なんとおせっ会」での成婚が48組に達している。また、空き家に入ってくる市外の若者カップルも増え、今年の募集には59人もの応募があったとこのことを考えるとその成果が出始めているのではと思える。

二市の視察で感じたことは、

- 1、人口減はどのような対策を打っても避けることは出来ない。
 - 2、西脇市として取り組む事業の必要性。
 - 3、定住人口増加は、各市とも取り組んでおり、事業はチキンレース状態にある。
 - 4、このまま各市町が対策の競争を続けていってもいいのか。
 - 5、新しい道の検討が必要ではないか。
- ということである。

西脇市においては、視察先二市での取組を検討しながら、若者が置かれている現状や婚活が出来にくい状況を見据えての人口減少対策が必要と考える。

「行政視察所感」

中 川 正 則

かほく市

定住促進施策について

～かほく市定住人口増加プロジェクト～

平成16年の合併時に横ばいであった人口が、平成18年以降減少傾向に転じている。

人口減少の要因として

1. 出生者数が死亡者数を大幅に下回る自然動態の減少傾向が著しい
2. 社会動態は概ね横ばい傾向であるが、中核市である県都金沢市を中心とした近隣市町へ人口が流出
3. 金沢市を中心とした生活圏域を形成する他の近隣市町においては人口の増加傾向

これらの要因に対し、部局横断の市職員による「定住促進プロジェクトチーム」を結成。調査、検討し11の新規、拡充事業を市町へ提案。「若年層の生活支援」「交流機会の創造」「住み良さの向上」を基本方針とした定住人口増加プロジェクトを策定。22年度に策定された若者マイホーム取得奨励金制度は26年度末までに 451件 239,850千円の奨励金交付を行っており転入者を含む定住者数は 1,537人の実績となっている。今年度は若者のさらなる定住を図るため、①県外3年以上居住者のU I Jターンに50万円加算や②新婚さん住まい応援事業補助金へ20万円加算③中古住宅の購入を新築の半分程度助成など拡充を目指している。

2015年度全国 790市区 住みよさランキング総合評価で9位（前年7位）にランクインしている。住みよさの算出指標となるのは、「安心度」、「利便性」、「富裕度」、「住居水準充実度」から評価されている。かほく市は総合的な住みよさを前面に打ち出し、生産年齢層の定住化を促進している。

～子育て支援情報の発信～

スマートフォンアプリを開発し、結婚・妊娠・出産・育児の情報を適切な時期に、必要な人に対して的確に発信し、切れ目のない支援を目指している。西脇市でも広報誌、防災無線だけでなく、子どもたちの年齢に応じた、きめ細やかな情報を直接保護者に提供出来るシステムを構築して、子

育て支援センターからの情報発信を有効な子育て支援としてほしい。

南砺市

「人口減少対策について」

平成26年4月1日より新課

～南砺で暮らしません課～の設置による主な取組

婚活支援活動 (市民協働課)

定住奨励金 (都市計画課)

移住体験ハウス (政策推進課)

定住対策 (政策推進課)

空き家実態調査 (住民生活課)

山間過疎地域支援 (政策推進課) 従来複数課で行っていた事業の一元化

休業日 毎週火曜日 と第4月曜日 (土日祝日の営業)

職員 5人 (臨時職員1名含む)

業務内容 婚活支援係 定住・空き家対策係 婚活支援係

南砺市 市長政策室 南砺で暮らしません課

～あなたと私を結ぶ赤い糸プロジェクト A I P 4 8～

若者の定住化の促進、人口の流出、減少を食い止めるためには、雇用対策や住環境の整備、地域コミュニティの活性化、育児環境の整備など総合的な取組が求められているが短期的に成果の得られるものではない、少子化の要因の一つである未婚化・晩婚化をわずかでも改善するために婚活支援に取り組んでる。事業を行うに当たり大切なことは、信頼感と安心感である、そのため南砺市が直接事業を行っている。

婚活応援団「なんとおせっ会」からの紹介で「婚活倶楽部なんと」の会員として加入。

一般公募、自治振興会及び婦人会等の各種団体から推薦された会員（おせっ会さん）によって組織され、各地域で独身男女の婚活指導相談や婚活イベント、集団お見合い会等を積極的に開催している。

婚活が若者の定住へと繋がるように、地区をあげてサポートされているように見受ける。

たとえ何組かでも地域に溶け込んで生活してもらえたらという気持ちが空き家バンクへの登録や、空き家再生等推進事業でのコミュニティ活動に繋がっているように思う。